



# 行政提案公募型協働事業について足利市に学ぶ

## 課題の解決には町民との協働による積極的な取り組みを

今回はこのメンバーで、足利市の行政提案公募型協働事業を調査しました。

- 男孝和 委員長
- 眞則嘉 委員
- 川原藤 委員
- 石笠齊 委員
- 筑井田 委員
- 筑島 委員



### ●行政提案公募型協働事業とは

足利市が実施している行政提案公募型協働事業は、市の施策などにおけるテーマ（課題）に対して、市民団体などから企画提案を募集し、市民と市がそれぞれの役割を担い合い、互いの特性を生かして市民と協働で事業を実施し、課題解決を図り、市民と行政の協働のまちづくりを推進する事業である。

市は、各課から提案のあった市の事業のうち、市民との協働により実施することが課題解決につながると思われる事業を「庁内連絡会」で選定する。

その後、選定した事業の実施団体を募集し、9名で編成する「事業選考委員会」で実施団体を審査選定する。委託料は1事業につき最高50万円で、2年までの事業の継続を認めている。

### ●主な事業

- ①巡回型ガイドブック付ウォーキングマップ事業  
委託先 あしかがさぼーと会
  - ②森でピザ焼き・森で婚活  
委託先 特定非営利活動法人名草里山の会
  - ③「まちおこしデザイン」作品から、元気な街！足利をつくらう！」  
委託先 足利工業高校産業デザイン科
  - ④住む人と来る人が快適に過ごせる景観まちづくり（足利学校、鑿阿寺周辺の景観まちづくりの可能性について）  
委託先 いしだたみの会
- などこの3年間で10事業が選定実施されている。



足利工業高校の生徒が制作した『足利学校前街路灯用観光フラッグ』

### まとめ

住民要望は年々複雑になり、行政だけでは十分に住民要望に応えることが難しくなっている。

町では現在、住民が事業を提案する協働事業を実施している。

しかし、住民に課題解決を働きかけ、協働でまちづくりを推進する、行政提案公募型協働事業も有意義と考える。

今後とも、さまざまな課題解決に向け、住民との協働によるまちづくりに積極的に取り組んでほしい。



説明を受ける委員

# 経済建設 常任委員会

## 茨城町の特産品開発と6次産業化を調査

# 特産品の開発には、ブランド化への情熱と、町の後押しが不可欠



今回はこのメンバーで、友好交流都市茨城町の特産品開発と6次産業化を調査しました。

委員長 備前島久仁子  
副委員長 町田宗宏  
委員 石内國雄  
高橋茂樹  
高川宏和

### ● 気候と土地に恵まれた

#### 茨城町

温暖な気候と、豊かな水に恵まれた茨城町は、人口3万3800人、面積は玉村町の約5倍という広大な面積を有し、数々の農産物を出荷してきた。涸沼や涸沼公園などの観光資源にも恵まれ、シジミやウナギ、メロン、イチゴ、梨、栗、常陸牛など、年間を通じた特産品があり、主に水戸市へ販路拡大している。平成26年には、玉村町と友好交流都市となっている。



### ● 茨城町の6次産業化への取り組み

「大量につくって大量に販売していた農作物を、何とかブランド化したい」という熱い思いから、農業活性化に向けた施策提言を開始。町内産のブランド創出のために、堆肥センターを整備し、消費者に信頼される安全で安心な農作物を提供し、直売所や観光施設との連携も図ってきた。

その結果、こだわり米「きらり」、米粉フックイ、芋焼酎、スイーツ、大地のスープ、味噌などの特産品10品目の開発に至る。町外から就農を志す若者支援も積極的だ。



地元農産物で開発された特産品

### まとめ

#### 玉村町の特産品開発への課題

豊かな農作物を、どう加工して、6次産業へ向けていくのか。それは茨城町が、農業者と一緒に開発に着手し、積極的に実行してきた結果だ。玉村町でも、農業者と一緒に、特産品の開発を進めるべきだと感じる。さらに、町外からの若者就農者受け入れも積極的に行い、定住促進につなげる施策も加えてほしい。

道の駅 玉村宿がオープンした。その町の農業と商業の活気が、直売所への集客へつながる。今後の農業支援に期待したい。



活発な意見交換が行われた